

世界の中の「群馬の実力」学ぶ

県議活動として、ミラノ国際博覧会と台湾視察に出掛けました。グローバル化が進み、世界の中の「群馬」の実力を学ぶことは欠かせません。

ミラノ博は平成27年5月から184日間開催。群馬県は10月29、30の2日間、「絹の国」ぐんまから食のおもてなし」を開きました。

大和議員は日本館の前で長蛇の列を目の当たり(写真左)



視野は世界に

にし、群馬の魅力を感じました。群馬県は全国に先がけ、欧州へ牛肉を輸出しています。そこで、上州和牛やコンニャクばかりでなく、温泉や世界遺産などの観光資源、自然、物産など群馬の魅力を広くアピールしてきました。

“火山県”の自覚を！

長崎・普賢岳噴火を視察

災害への備え

県議会の総務企画常任委員会は

平成27年9月1日から3日間、長崎県島原市の「雲仙復興事務所」を訪れ、平成3年の普



台湾視察は11月9日から12日まで。(写真右)は立法院の蔣介石総統の額の前で李委員と握手している姿です。群馬県を訪れる外国人の宿泊数は、台湾から半数を超えています。視察は台湾との交流をさらに深める狙いがありました。



視察先は立法院をはじめ日本人学校、総合病院など広範囲にわたりました。多くの親日家と会い、感動。群馬の農産物が輸出できない状況の中、李委員から「そう遠くないうちに解除になる」との見通しを聞き、大切なパートナーを確信しました。

賢岳噴火以降の経過などを視察しました。現地の見学をはじめ、ビデオなどの資料から火砕流・土石流の恐ろしさを痛感させられました。大野木場監視所では、普賢岳の噴火に備えて監視モニター(写真上)が整備されており、被害の極小化への取り組みを学びました。群馬県は過去に、浅間山や榛名山が何度も噴火を繰り返してきました。浅間山が噴出した際にも土石流の発生が考えられ、特に積雪のある冬の噴火は雪を溶かしながら進行するケースが想定され、その対応も求められています。

芳ヶ平湿地群を巡る

大和県議は10月、草津町と中之条町に広がる芳ヶ平湿地群と周辺を巡りました。標高1800以上の湿地群は豊かな自然を残し、昨年5月にラムサール条約に登録されました。



常布の滝をバックに。地元伊勢崎にはない景観に「群馬の広さ」を実感しました。

長野県境の渋峠(標高2152)から湿地群を経て標高900のおよそ10を走破しました。紅葉に彩られた森や火山が作る景観、常布の滝など、地元伊勢崎とは異なる自然を体験しました。この視察はラムサール条約の登録を受け、自民党県議団として「来訪者が安心して訪れられるか」などを確認するために行われました。

美しい利根川いつまでも

大切にしたい地元の思い



井野俊郎代議士、柴町区長、大和県議(左端)は伊勢崎市柴町の利根川・五料橋付近の中州にある林木の処分を要望し、国土交通省の職員から説明を受けました。

県議会議員 大和 勲 事務所

伊勢崎市山王町 1142-6 (あすなろ館児童クラブ内)

電話 0270-23-7797 FAX 0270-27-5260

メールアドレス info@isao-y.net

ホームページアドレス http://www.isao-y.net/

